

BCS

PRIZE-WINNING WORKS

BCS賞受賞作品探訪記

20

第四一回受賞作品（二〇〇〇年）

## 北九州市立 松本清張記念館

後編

松本清張記念館は低層棟と中央棟から成り、小倉城址の風景と溶け合っている。前編では、清張の全体像に迫ろうとする企画運営や、設計関係者の努力を紹介した。後編では、施工者が現場でどのような難関を乗り越えていったかを紹介する。

低く小さな入口を潜ると、一転してダイナミックなエントランスホールの光景に魅了される。トップライトから降り注ぐ光が地下階への階段まで届き、コンクリート打放しや陶板、珪藻土塗りなどの素材感豊かな空間を映し出す。床はカリンの無垢フローリング。手摺や床の断面に施された差し色の赤が来館者の気持ちを高めるようだ。

濠からの湧水に悩まされた  
地下工事

松本清張記念館の敷地は小倉城址の南西の一角にある。もとはお濠を埋め立て、長さ四〇㍎、高さ五㍎の石垣が地上に現れていたが、設計者の宮本忠長氏はこの場所の本来の魅力を蘇らせた。埋もれていた濠を五㍎掘り下げること、石垣を高さ一〇㍎とし、記念館の背景に量感たっぷりの美しい陰影をつくりだしている。

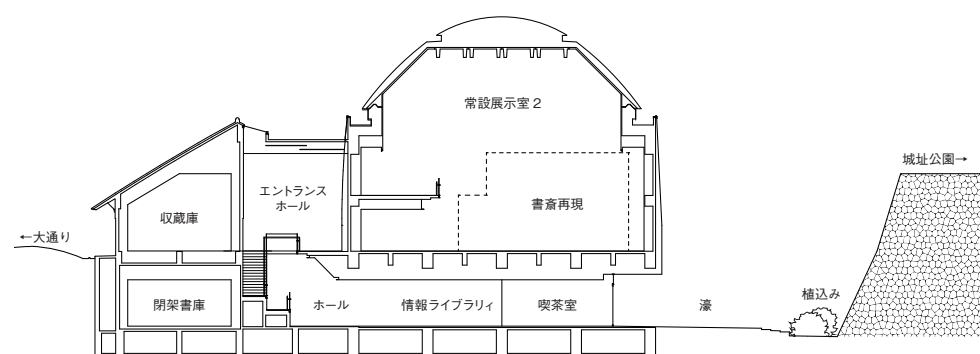
施工にあたったのは松村組・森組JVである。工期は一九九六年六月～九八年六月の二年間。現場所長を務めた松村組・井元輝幸氏が着任したときは、北九州市が地下埋蔵物などの発掘調査を行った後だった。「石垣や井戸の跡などが出ていた状態でした。その中に残っている石を生かして、修復に使用したいということで、掘削前に保管しておきました。施工するときは一枚一枚切断したり割ったりしながら貼っていったんです」。敷地内の既存石垣は全部撤去し、その後一部を石垣跡サインとして

復旧（撤去した石を使用）した。新たな濠庭に歴史を織り込んだ景色を見せている。

地下の掘削に関しての難関は、敷地の北側に水を湛えた濠が現存しており、掘れば大量の水が常に湧き出すことだった。もともと支持地盤が軟岩でできており、その上に直接基礎を設けるため、水位が捨てコンクリートまで上がる危険性があった。水位の上昇を止めるため、シートパイルという山留め工法で地山を補強し、水をポンプ数台で排出しながらの地下工事、九カ月を費やすことになった。また、敷地の東側は石垣が迫り、西、南の二方向は大通りの交差点に面している。交通環境と安全面に配慮して、搬出入口やクレーンの設置箇所などは北側に限られた。土の埋め戻しの際も、敷地を大きく跨いで、クレーンのアームを操作するため、日数がかかった。

精度が高く、素材の美しさを追求する設計に込める

記念館の建物は地下一階、地上二階。鉄筋コンクリート造で、中

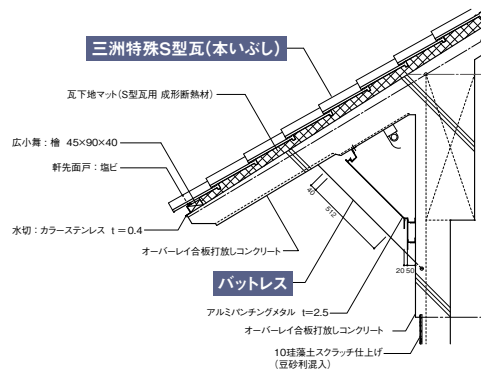


左／断面図。埋め立てられていた濠を5m掘り下げて復元し、地下1階、地上2階の建物が建てられた。地下階は、濠や石垣の表情を見通せる魅力的な空間となっている。

下／敷地の発掘調査後の状況。左手が城址公園側の石垣、奥と右手が大通りに面している。新たに石垣が見つかり、一部は庭の景色として取り入れられた。（提供：株式会社松村組）







上／低層棟の軒下に連続する打放しコンクリートのバットレスが、瓦屋根を支える。(提供：株式会社宮本忠長建築設計事務所)

下／軒下の断面詳細図。細部までこだわりぬかれた複雑な設計を、施工の工夫を重ねることで実現した。

ど、段取りから神経を行き渡らせなくてはならない。複雑な形状の部分があれば難しさも増す。

「低層棟は平屋で、内部が清張先生の仕事を紹介する展示室ですが、内部の天井梁と、外部の瓦屋根の地下になる面を一括で、コンクリート一発打ちでした。しかも、梁も打放し仕上げなんです」と井元氏。「軒先(庇)部分はバットレスがきれいに連続しているんですが、これも打放しで難しい。私は型枠の組み方とコンクリートの打ち方を実際に検討するために原寸模型をつくりました」。苦心した施工のディテールが次々に浮かん

でくるようだ。

さらに低層棟の施工の山場となったのは、特殊な瓦葺きだった。道路の交差点のカーブに合わせて、屋根がL字型に回り込んでいく曲面なりに和瓦を葺くという設計だ。「初めての経験でした。三州瓦の特注品で、一人の職人が一カ月以上かけて葺きあげました」。一般に曲面を覆うには、切り替え部分で段を設けて葺くが、ここでは、瓦のほうにジョイント部分をつくったり、納まる位置によって形状・大きさを少しずつ変えた瓦をつくり、なだらかに葺きあげている。

中央棟の屋根をプレキャストコンクリート造で構成している。井元氏は、官公庁の建築物施工については社内でのエキスパートで、公共施設や学校、社寺など、さまざまな現場経験をもっていた。だが清張記念館については、それまでと勝手が違ったという。「担当になったときに、宮本先生の設計図面を見れば見るほど、これは容易ではないと思いました。設計精度が高くて、どこをとっても逃げがない建物なんです。適切な工法として、かりした協力会社を選ぶことが重要でした」。

### 低層棟の瓦葺き屋根をシンプルな曲面で表現

全体に共通するのは鉄筋コンクリート「打放し仕上げ」のシャープさ、肌の美しさである。型枠に鉄筋を組み上げ、コンクリートを流し込み、柱や壁などの構造躯体がつくられるが、同時にコンクリート表面をそのまま仕上げとして現す。型枠は化粧型枠といって、コンクリートが触れる面に平滑な処理が施してある。きれいに仕上げるには、型枠の設置精度や、表面を傷つけないように養生するな



常設展示室1「松本清張の世界」。清張の多岐にわたる創作活動の全貌を紹介している。連続する梁は鉄筋コンクリート打放し。

### 施工者より

「やってやれないことはない」  
厳しい経験がプラスになりました



松村組・森組J-V  
現場事務所所長(当時)  
**井元輝幸**  
Teruyuki Inoto

松本清張記念館の現場を任せられたのは四八歳になる頃でした。一番心に残っているのは、なぜ記念館を地下に置くという設計にされたのか、宮本先生にうかがったときのことです。先生は「この場所は小倉城が中心だから、それより目立つ建築にはいけない」とおっしゃったんです。これはすごいなと感心させられました。とにかく周りよりも目立たせようとする例が多い中で、小倉の人たちの城を大切に思っている気持ちを理解しておいでなんです。

設計精度は高いし、あらゆるところにこだわりがあるので、施工は苦勞の連続でした。当時、宮本事務所の設計チーフだった久保隆夫さんとの話し合いは、ぎりぎりのせめぎ合いで、朝になることもしばしばでしたし、宮本先生は本当に粘り強く、われわれを説得されるんです。おしまいは「わかりました。やってみましょう」と、応えざるをえない。この経験の後はいろいろなことに対して、「やってできないことはない」と腹が据わるようになりました。できないうと簡単に言うのは技術屋として恥ですから、部下にも「どんなことが出てきても、すぐにできないと言わない」と。いろいろな話し合いの中で、市の関係者の方、設計施工がこの記念館をつくるという目標に向かって一つになっている実感がありました。だからいい記念館ができたんだと私は思います。充実した思い出深い現場です。



常設展示室2「思索と創作の城」。2階のデッキから松本邸の書斎、書庫を窺うことができる。蔵書の並び方ももとのまま。屋根は格子とY形に成型したプレキャストコンクリート版を構造体とし、ドーム状の大空間を可能としている。





中央棟の外装は陶板。地下階の濠のレベルに鉄平石を敷いてテラスや植え込みがづくり込まれた。  
宮本忠長氏が石垣の上から全体を眺めながら鉄平石の配置を調節していった。魅力的な空間が多くの人を惹きつけている。

## 静かな創作の場を ドームで包み込む

中央棟の内部に松本邸を再現する工事を行うために、一、二階の躯体工事を余裕をもって完了させる必要があった。建築資材や、東京から運んできた応接セット、書斎の家具、蔵書などを運び入れるために、中央棟北側の一階壁に高さ二メートルほどの開口をあけておき、工事の最終段階で閉じられた。また、ドーム状の屋根を架けることで、大スパンのおおらかな空間を生み出した。屋根は鉛とステンレスの複合版で葺かれ、経年変化でやわらかな灰白色に落ち着いている。「とてもいい景観になっていると思います」と井元氏。外壁は重厚で味わい深い陶板が張られた。「宮本先生のこだわりもさまざまでした。濠の庭を鉄平石を敷いてデザインされたんですが、石垣と植え込みとの間は穏やかなカーブを描いているんです。このカーブを出すために、宮本先生が現場で全体を確認しながら、石の位置を調整されました。われわれがロー

プをもって、指示通りに縄張りをしていきました」。

## 人を惹きつけ、 多目的に利用が広がる記念館

清張記念館は開館以来、ユニークな企画展によって清張の多面性を浮かび上がらせた。また、新たに松本清張研究の拠点をつくった。二〇〇八年にはその活動が認められ菊池寛賞を受賞。さらに、記念館の地下のオープンスペースや外部テラスのもつ雰囲気が、多くのアーティストや市民を惹きつけ、アート、音楽、演劇やパフォーマンスなど、多目的に活用されている。藤井康栄館長は「当初は予想していなかったことです。このスペースをぜひ使わせてほしいと言われるんですから、うれしいですね。これは建築がもっている力なんです。『うね』と顔を綻ばせる。素のコンクリート、陶板、石、木などの素材感で囲まれる空間は気持ちよく、この場の歴史性も感じさせてくれる。清張の存在感を宿す空間はこれからも愛され続け、人の輪をさらに広がっていくだろう。